

情報モラル教育の充実において

今回は、情報モラルの学習（5年生）の様子をご紹介します。

学習①コミュニケーションの大切さ

授業は、ミニ動画の視聴からスタートしました。

ミニ動画の内容は以下の通りです。

- ①4人組の子どもたちがLINEで自分たちのダンスについてやり取りしている途中でA子が「ありえない」と発言。（A子は、「ありえないくらいすごい」と言いたかったのだが…）
- ②その日を機会に他の3人から仲間外れにされてしまう。
- ③A子は先生に相談するが、学校に行けなくなってしまう。
- ④心配した友達の1人がお見舞いに行き誤解が解ける。
- ⑤元の仲良し4人組に戻る。



きっと自分たちの経験も重ね合わせながら見ているのでしょう。静かに動画を視聴する子どもたちの様子に関心の高さを感じました。



視聴後には、どこに問題があったのか、解決できた要因は何なのかということについて各自の思いを出し合いました。そして、友達の意見に対して付け加えの意見や反対する意見など自分の考えを述べる活動を通してトラブルの原因や解決方法についてまとめました。



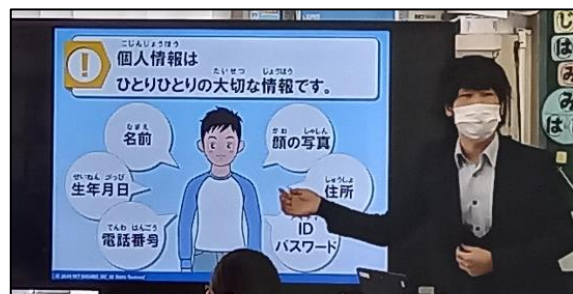
「友達とメッセージのやり取りをしている途中でほかの友達の悪口が始まった場合、あなたならどうする？」という問題に対して、子どもたちが出した答えは…。

この事例では、①先生（大人）に相談したこと
②友達と直接話をしてお互いの気持ちを確認したことという2点がポイントとなりました。

子どもたちもよく使う「ありえない」という表現がもたらしたトラブルの事例から『文字だけのやりとりでは本当の気持ちが伝わりにくい』ということを改めて学ぶことができていました。

学習②個人情報の大切さ

この授業では、いろいろな個人情報を SNS※1 に投稿したために、どこで何をしているのかということを知られてしまい怖い思いをしたという事例をもとに、個人情報がいかに大切なものであるのかということ学びました。学習のまとめで「SNSにアップするときは個人情報がなくか確かめたい」「自分だけではなく友達や知らない人の情報でも公開しないようにしたい」などと発言していた子どもたちの様子が印象的でした。



ゲストティーチャーにICT研究指導員の方をお招きして個人情報について詳しく話していただきました。

システムを制限したり、子どもたちにルールを押し付けたりすることによって、情報の悪用やトラブルを防ぐことは可能です。しかし、子どもたちの将来を考えると情報モラルを身に付けさせることの方がより重要であると考えます。そこで、トラブルの事例をもとに子どもたち自身に原因や解決方法を考えさせる問題解決的な学習が効果的になります。飯塚市教育委員会としましては、今後も情報モラル教育の充実に向けてまいります。

※1…SNSとは、ソーシャルネットワーキングサービスの略で、インターネット上でコミュニケーションを図ることができるサービスのこと。